

# 埋文だまがた



2004年10月31日  
第30号



酒田市 亀ヶ崎城跡二の丸橋脚検出状況

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301㈹ FAX 023-672-5586

ホームページ：<http://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：[kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp](mailto:kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp)

# 発掘調査遺跡年表

## 2004年 発掘調査トピックス

今年度は国土交通省や、農林水産部・土木部・教育委員会・道路公団からの委託を受けて、県内20遺跡の発掘調査を行っています。今回はその中から5遺跡について、発見された生活の跡や当時の人々が残した道具などをトピックスとして紹介します。

なお、ホームページでは各遺跡の調査状況を、速報として毎週お伝えしています。合わせてご覧ください。  
([www.yamagatamaibun.or.jp](http://www.yamagatamaibun.or.jp))



年代	時代	今年度発掘調査遺跡
3万5000年前	旧石器時代	
	前期	太郎水野2遺跡
	中期	
B.C.1100 (1万3000年前)	後期	
	草創期	
	早期	梓山a遺跡
	前期	町在家館跡 梓山d遺跡
	中期	小反遺跡 百刈田遺跡 太郎水野2遺跡 山形西高敷地内遺跡
	後期	町在家館跡
B.C.4000 (6000年前)	晩期	地坂台遺跡
	繩文時代	
	中期	
	後期	
	晩期	
	紀元前	
A.D.1	弥生時代	
		向河原遺跡
300		
400	古墳時代	梅野木前1遺跡
500		向河原遺跡 百刈田遺跡 六角壇遺跡 山形西高敷地内遺跡
600	飛鳥時代	
700	奈良時代	山形西高敷地内遺跡
800		百刈田遺跡 高瀬山遺跡HO2期
900		梅野木前1遺跡 向河原遺跡 鶴の木館跡 西中上遺跡 六角壇遺跡
1000	平安時代	
1100		
1200	鎌倉時代	高瀬山遺跡HO2期 向河原遺跡
1300	南北朝時代	
1400	室町時代	上野遺跡
1500	安土桃山時代	亀ヶ崎城跡
1600		山形城三の丸跡
1700	近世	大在家遺跡
1800	江戸時代	
1900		
	近代・現代	

# 狩人たちのキャンプサイト！

## たろうみずの 金山町太郎水野2遺跡



調査区内の旧石器出土地区



旧石器出土状況



縄文時代中期の竪穴住居跡



縄文時代晚期の竪穴住居跡

遺跡は金山町の中心部から約6km北を西流する中田春木川の中位段丘に立地しています。調査では、旧石器時代と縄文時代の遺構や遺物が確認されました。旧石器時代の遺物は後期旧石器に特徴的なナイフ形石器が多く見られ、逆に剥片（石器を製作したときにできる破片）は少量しか見られませんでした。縄文時代では中期の複式炉をもつ竪穴住居跡が1棟と、晩期の竪穴住居跡1棟・貯蔵用土坑5基が検出されました。

# 縄文中期末の大集落！

ごそり  
鮭川村小反遺跡



山形県では最大の大きさをもつ、縄文時代中期の竪穴住居跡

直径が9mの竪穴住居跡です。その大きさは住居の規模だけでなく、複式炉や柱穴においても他のものとをはるかに凌駕します。当時の集落の長の住居あるいは、集会所のような場所だったのでしょうか。



2回の拡張工事が行われた竪穴住居跡

直径6mの大形の住居跡ですが、複式炉、柱穴、周溝とも2回の拡張が行われました。最初の複式炉（左側）は全ての石と土器が抜き取られて埋められていきました。次のもの（右側）は、石と土器を残して埋められました。最後の複式炉（手前）は、住居を廃棄したのちに自然に埋没しました。

小反遺跡は鮭川左岸に営まれた縄文時代中期末（約4000年前）の集落遺跡です。いずれも同じタイプの複式炉と呼ばれるいろいろをもつものです。

残りの良いもので11棟の竪穴住居跡が見つかりました。大小さまざまありますが、大きいものでは直径が約9mを測るものもあります。縄文時代中期の円形の竪穴住居跡では、県内最大のものです。



竪穴住居跡

# 墓? 家? 謎の方形溝

ろっ かく だん  
南陽市六角壇遺跡



5基の周溝が並んでいます



遺跡内最大となる一辺が約25mの周溝です

南陽市の赤湯駅から南西へ約1.2kmの水田・果樹畑に立地する古墳～奈良・平安時代の遺跡です。約1.8km東には国指定史跡の稻荷森古墳が存在します。

調査により、古墳時代の方形に巡る大小十数基の溝跡が見つかりました。中には、一辺約25m、溝幅約5mを測る大きなものもあります。

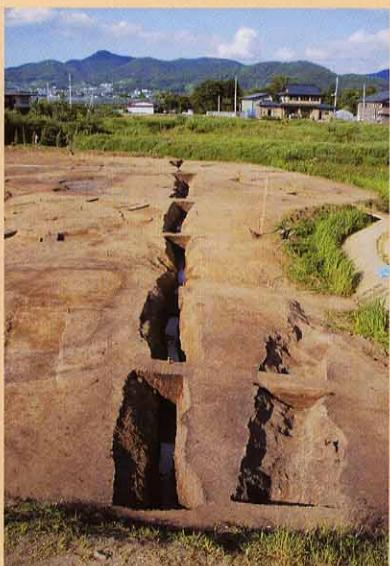
小さいものは住居に伴うものと推測され、大きなものは方形周溝墓や古墳の可能性が考えられます。これだけ多くの周溝が見つかったのは県内でも珍しいことです。周溝からは彩色された土器が出土しました。



↑一辺 約10m  
を測る周溝の  
完掘状況



↑周溝内から彩色された  
甕の口縁部が出土しました



←この溝跡からは、9  
～10世紀の土器が  
多量に出土しました

# リバーサイドの一等地！

## むかいがわら 山形市向河原遺跡



6次調査区全景（左奥は東北中央自動車道）

山形市の北西部、明治地区にあり、白川左岸の自然堤防上に立地します。

これまで6次にわたる調査が実施され、弥生時代から中世までの遺構が検出されました。

特に、古墳時代の住居跡からは、多数の遺物が出土しています。



古墳時代・平安時代の住居跡



古墳時代の竪穴住居跡（焼失住居）



古墳時代のうね状遺構



カマド周辺の出土状況  
こしき  
(瓶や入れ子になった甕なども見られました)



↑平安時代の竪穴住居跡



←弥生時代の土器片

# ひなの風流人！

うわの  
鮭川村上野遺跡



周囲が堀・溝に囲まれた館跡です。中心部には多数の柱穴が見つかりました。

最上地方北部には室町時代末期に鮭延氏が入部したとされています。上野遺跡は見つかった遺構や出土する遺物から15世紀半ばから16世紀前半を中心とした武士の居館である可能性が高いと考えられます。鮭延氏が入部するのと前後して遺跡は廃絶したものと見られます。

遺構は庭園の存在をうかがわせる石組池や石敷遺構、館を幾重にも囲む堀跡・溝跡、掘立柱建物跡や竪穴状遺構などが見つかりました。遺物は青銅鏡や懸仏をはじめ、茶道具である天目茶碗や風炉、ほかにも青磁・漆器・硯・碁石などが出土しました。

堀をめぐらし外敵に備えますが、内部では庭園を造り、お茶・書・碁などの都風文化を有していたようです。鮭延氏入部以前の最上地方北部の様子が今回の調査で初めて見えてきました。



石組池



擬漢式鏡

中国の漢の時代の鏡を模して和漢折衷様式で作られたものです。出土したものは右上部の破片ですが、縁のほぼ中央に孔があけられており、破損した後も使用されたようです。



懸仏

本地垂迹説に基づき、神鏡に本地仏を表したものです。本来は鏡と仏像が一体となるのですが、仏像の部分だけが出土しました。比較的小形の坐像ですが、表面には塗金が施されています。主尊ではなく脇持仏か、もしくは複数の尊像を表したうちの一体と考えられます。

# 秘宝館

## 破鏡

うまあらいば  
山形市・馬洗場B遺跡



### 「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023(672)5301 (代表)

鏡は古来、呪術的なものとして重視され、祭器や権威の象徴・財宝とされていました。このため、墳墓や古墳から副葬品として出土する例が多いようです。

「破鏡」とは鏡片の中で、破断面または鏡面の全体が人為的に研磨され、懸垂用と考えられる穴が開けられているもの、あるいは研磨・穿孔のいずれかが観察されるものです。これらの二次調整が確認されない鏡の破片は、「鏡片」として区別されます。

写真は、現在の東北中央自動車道、山形市中野に所在する馬洗場B遺跡の竪穴住居跡から出土した破鏡で、復元径が82mmを測る「内行花文鏡」と呼ばれるものです。年代は今から約1700年前の古墳時代前期のものと考えられています。日本で見つかっている破鏡は現在160点余りあります、そのほとんどは九州北部から出土しています。破鏡や鏡片は墳墓や古墳よりも、集落・祭祀遺構からその多くが見つかっています。山形市で出土した今回の事例は、現在のところ日本最北での発見例として注目されます。その伝播ルートは、北部九州から日本海を主要交通路とし、山陰・北陸を経由して北上したと考えられます。

(高橋 敏)

### ■編集後記■

今回ご紹介した5遺跡のほかにも、県内各地で開発事業に伴った遺跡の発掘調査が行われています。その成果をお伝えする「報告会」を12月19日に山形ビッグウイングで開催します。併せて、遺物の展示や縄文体験活動も実施しますので、ぜひご来場ください。